

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 思考するAIとのコミュニケーションの実現

2. 個人研究者名

金子 知適（東京大学大学院情報学環・学際情報学府 准教授）

3. 事後評価結果

これからの社会では、大量の情報を蓄積・統合し高度な判断を行う「思考型」AIの活用が期待される。それらが広く受容されるためには、AIが判断の論拠をユーザーに適切に伝え、ユーザーから信頼を得るためのコミュニケーションを行う必要がある。AIの思考過程を自然言語と結びつけ、質疑応答を行うシステムの実現を目指した。

研究のターゲットを囲碁・将棋に定め、実際に強化学習のためのデータを作成するとともに、膨大な棋譜に頼らない効率のよい学習を実現する技術開発を行った。また、画像認識の技術を応用し、AIが盤面のどこを見て着手したかの判断根拠を一部可視化することに成功した。

今後は人間にとって価値のある分析過程を抽出し、それらを特定の評価値と結びつける技術の開発を期待する。引き続き専門家や開発会社との連携を模索してほしい。